

2019年実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座 《講義録6限目》

《講座のメインテーマ》

防災・減災の取り組み

その具体的な進め方！

記録：講座運営委員長 中村 誠

◆開催月日：2019年11月21日(木) 13:30~17:00

◆開催場所：KU ポートスクエア

◆本日のテーマ◆

・前半：『自治会の防災活動から小学校区の防災へ

～関谷小学校区ブロックの防災活動について～』

講師：江上 健 氏(関小ブロック防災協議会運営委員長)

・後半：『我が地域防災への取組決意』

講師：高松 清美 氏(NPO法人 よこはま・ななつぼし代表)



講座の様子



講師：江上 健氏

《鎌倉・城廻（しろめぐり）自治会防災保全部役員となり活動スタート》

- 課題①役員輪番制のため、経験や課題が継続されにくい
- 課題②防災倉庫の資材機材の整備を行うのに、人手も予算も足りない
- 課題③継続して防災活動を行うことの出来る人の確保、発災時の体制づくり、平時の活動計画を立てる
- 課題④大規模災害時の自助の大切さを実感し、会員に災害時の備えについて啓蒙活動を行うと共に、共助として自治会防災をすすめる必要がある

《城廻自主防災隊活動“本格スタート”～“他地区との連携”へ》

- 課題⑤災害時避難所運営の難しさを実感、早急な対策実施が必要。課題を自治会内で話し合う場がない
- 課題⑥関小ブロック内の自治会内で防災課題を共有し、話し合う場をつくる
- 課題⑦自治会世帯数の差や防災体制作りの進捗の差などによる格差解消
- 課題⑧2012年6月実施以来、開催していない宿泊訓練の開催
- 課題⑨防災意識の向上とブロックとして備えておくこと、および行政との連携
- 課題⑩関小ブロック協議会運営やブロック運営上の成果と課題（活動資金や行政との協力）
- 課題⑪玉縄地域の他2小学校ブロックとの連携および他地域との連携
- 課題⑫今までの防災対策は地震を主に対象としてきたが、防風雨災害対策が必要
- 課題⑬台風被害など、鎌倉全市での対策が必要。そのための地域と行政の情報共有が必要

*玉縄地域：鎌倉市の5行政区のひとつ、関谷小・玉縄小・植木小、玉縄中がある

『今後の課題と展望 ～災害対策の基本、公助と共助、避難所と避難所運営マニュアル～』（抜粋）

- 助け合える環境づくりには、隣近所とのお付き合い、地域イベントなどへ積極的に参加することで、顔見知りを増やすことが重要
- 自治会は地理的・人的条件等に即した防災計画を立案し、地域一体となって防災対策を繰り返し行っていくことが大切
- 地域の実情に合わせた避難所ルールを予め決めておくことは、秩序ある避難所運営の助けになる。準備や備えを進めておくことはとても大切

《熱く自分の防災史を、その時々失敗・苦労話を！実践した人しか語れない口調で、迫力満点の講義》

《我が地域防災への取組決意》

- 出来る人が出来ることをやれば良い
- 自分の地域の死亡者ゼロを目指したい
- 次世代の為に防災教育をしていきたい（発言から抜粋）

《荏本孝久塾長 講評》

今回の印象としては、素晴らしい話が毎回聞けた。過去と比べ、講師と受講者がかみ合っていたと感じる。講師は地域防災に関わっている人が多かったため、地域防災についての話が多く聞け、関心がさらに深まったと感じる。



荏本塾長

第6回アイブレイク出題 『防災めぐり・子ども版』から

- 家に帰る途中、通学路を歩いていると、突然、ぐらぐらと揺れた。驚いて、すぐその場で「だんご虫ポーズをとった」

あなたの意見は『それは良い』か『別の考えがある』のどちら？

アイブレイク担当：片山晋さん